

2021 年度 年次報告書

国立大学法人山口大学
地域防災・減災センター

2022 年 4 月



地域防災・減災センター
Center for local disaster prevention and mitigation

はじめに

山口大学地域防災・減災センターは 2020 年 7 月に本学の研究拠点群形成プロジェクト採択課題に基づいて設立され、2022 年 4 月で 3 年目を迎えました。その間、新型コロナウイルス感染拡大は消長をくり返しつつも依然として収束の気配を見せておりません。

しかしながら、医学研究者・医療従事者の尽力により、新型コロナウイルスの特性がある程度分かり、感染防御策が確立されてきました。また、ワクチンや治療薬も続々と開発・実用化されてきました。以前とことなり、人類は未知のウイルスに対して無力な存在ではなくなったように思います。一方、コロナウイルスも自身の存亡をかけて、変異を繰り返しているように見えます。人間からみればウィズ・コロナでしょうが、ウイルスからみればウィズ・ヒトなのでしょう。

自然災害の発生状況に目を転じますと、国内外を問わず、各地で大雨・地震・火山噴火等による被害が発生しています。防災力が脆弱な国・地域では深刻な被害になっています。記録的豪雨のような極端気象の発生は地球温暖化に起因することは明白であり、政府が掲げる 2050 年までに温室効果ガスの排出をゼロにするカーボンニュートラルの達成が益々重要になっています。

そういった中、2022 年 2 月にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が起きました。それ以降、世界は国際的なエネルギー危機に陥り、原油や天然ガス等の高騰とそれに伴う物価上昇が深刻な問題になっています。また、アフリカ諸国では食糧不足による飢饉の発生が心配されています。世界はまさに「災害」「疫病」「戦争」「飢饉」の負の連鎖により社会が不安定化した時代に入っているとっては大袈裟でしょうか。

日本の歴史を振り返りますと、日本人はこれに類似した、あるいは、もっと深刻な状況を経験しています。しかしながら、日本人は、資源やエネルギーが乏しく、大雨や地震が頻発し、急峻な山地が多い国土において多くの困難・災厄を克服し、安全で豊かな国になるよう尽力してきました。今こそ、先人の功績と賢智に感謝の念をもって学びつつ、さらに新しい知見や技術を取り入れ、現在に活かすべき時期と思います。

当センターでは、このような厳しい現実に対峙し、宇部市のような地方都市における防災・減災、医療介護、公衆衛生などの問題を解決し、将来を見据えた持続可能な都市社会モデル「新・宇部方式」を提案することとしております。現在、学内から 28 名の研究者が参画し、自然災害、リスクマネジメント、保健衛生、環境・防災教育、国際防災及び海洋・気象の 6 つの部門において自然災害と疫病に対して社会を強くする国内初の研究センターを目指して活動しています。

本報告書は 2021 年 4 月から 2022 年 3 月までのセンター及びその構成メンバーの活動成果をまとめたものです。ご高覧いただき、興味がありましたらセンター事務局までご連絡ください。また、2022 年度においても内外の研究者を招いた講演会やシンポジウム、テーマを定めたセミナーなどの行事を多数企画しています。ご関心のある方はご参加いただきますと幸いです。

引き続き、よろしくお願い申し上げます。

2022 年 4 月吉日

地域防災・減災センター長
鈴木 素之



地域防災・減災センター 2021 年度 年次報告

目次

はじめに

1. センターの構成	3
1-1. センターメンバー	3
1-2. 部門メンバー	7
2. 全体活動報告	8
2-1. 概要	8
2-2. 活動報告	8
2-2-1. 講演会	8
2-2-2. セミナー	9
2-2-3. 報告会	10
2-2-4. 国際セミナー・シンポジウム	11
2-2-5. 地域・社会貢献活動	13
2-2-6. 他団体との連携	14
2-2-7. 広報	14
2-3. 会計報告	15
3. 部門活動報告	16
3-1. 研究成果概要	16
4. 個人活動報告	18
A. 学術雑誌等	18
B. 国際会議における発表	23
C. 国内学会・シンポジウム等における発表	27
D. 学会運営等	31
E. 報道関係	36
F. 表彰・評価関係	38
G. 獲得研究費	38

あとがき

1. センターの構成

1-1. センターメンバー

2022年3月31日現在、表1に示すように幅広い分野から30名がメンバーとなっている。

表1 地域防災・減災センターメンバー（2022年3月31日現在）

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
【センター長】			
鈴木 素之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	時間防災学 博士（工学）	【自然災害部門】部門長 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、斜面災害、時間防災学
【副センター長】			
牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・教授	公衆衛生看護学、地域看護学 博士（看護学）	【保健衛生部門】部門長 & 【環境・防災教育部門】 災害時保健衛生
榊原 弘之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	地域計画学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】部門長 減災まちづくり、緊急災害調査
【構成員】			
赤松 良久	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【海洋・気象部門】 & 【リスクマネジメント部門】 水・土砂災害、ウイルス
朝位 孝二	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
足立 亮介	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・助教	制御理論 博士（情報科学）	【リスクマネジメント部門】 & 【自然災害部門】 ウイルス
網木 政江	山口大学大学院医学系研究科 基礎看護学分野・講師	災害看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
鵜 心治	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	建築学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】 減災まちづくり
磯村 聡子	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・講師	地域看護学 博士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
大澤 高浩	山口大学大学研究推進機構 先端科学イノベーション研究センター・教授	リモートセンシング工学 博士（工学）	【海洋・気象部門】 部門長 & 【国際防災部門】 & 【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 海洋気象
太田 岳洋	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・教授	応用地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 災害地質学、緊急災害調査
楮原 京子	山口大学教育学部・准教授	自然地理学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【リスクマネジメント部門】 時間防災学
斎藤 美矢子	山口大学大学院医学系研究科 地域看護学分野・講師	地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
坂口 敦	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・助教	農業土木（土壌物理学） 博士（農学）	【国際防災部門】 干ばつ害、水災害
白水 元	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・助教	海岸工学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授	気象学 博士（理学）	【海洋・気象部門】 気象学、雲物理学
鈴木 祐麻	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	環境工学 Ph.D. (Eng.)	【環境・防災教育部門】 衛生環境

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
高橋 征仁	山口大学人文学部・教授	社会心理学 文学修士	【環境・防災教育部門】部 門長 防災心理学
辻 智大	山口大学大学院創成科学 研究科 地球圏生命物質科学系専 攻・助教	地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 災害地質学
鶴田 良介	山口大学大学院医学系研 究科 先進救急医療センター・ 教授（センター長）	救急医療 博士（医学）	【保健衛生部門】& 【リス クマネジメント部門】 災害医療、災害時保健衛生
中正 和久	山口大学大学院創成科学 研究科 電気電子情報系専攻・准 教授	情報工学 博士（工学）	【保健衛生部門】& 【自然 災害部門】 ヘルスケアシステム
樋口 隆哉	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・教授	環境衛生工学 博士（工学）	【保健衛生部門】 環境質評価、衛生環境
村上 祐里香	山口大学大学院医学系研 究科 地域看護学分野・助手	地域看護学 学士（看護学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
森 啓年	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】 水・土砂災害、緊急災害調 査
森下 徹	山口大学教育学部・教授	歴史学 博士（文学）	【自然災害部門】 防災授業
山本 晴彦	山口大学大学院創成科学 研究科 農学系専攻・教 授	環境防災学 博士（農学）	【自然災害部門】& 【環 境・防災教育部門】 風水害、防災学習、避難計 画
山本 浩一	山口大学大学院創成科学 研究科 建設環境系専攻・准教授	環境工学 博士（工学）	【国際防災部門】部門長 & 【自然災害部門】& 【海 洋・気象部門】& 【環境・ 防災教育部門】 水・土砂災害

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
吉本 憲正	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】&【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
渡邊 学歩	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地震防災・耐震工学 博士（工学）	【自然災害部門】 地震防災・橋梁耐震・豪雨災害
【事務局】			
山本 裕子	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	環境工学 博士（工学）	衛生環境

【構成員】以下 50 音順

1-2. 部門メンバー

地域防災・減災センター設立当初からの自然災害部門、リスクマネジメント部門、環境・防災教育部門、保健衛生部門の4部門と、増設された国際防災部門、海洋・気象部門のあわせて6部門からなる。各部門のメンバーを表2に示す。

表2 地域防災・減災センター部門メンバー（2022年3月31日現在）

自然災害部門 16名	リスクマネジメント部門 6名	環境・防災教育部門 10名	保健衛生部門 8名	国際防災部門 5名	海洋・気象部門 4名
【部門長】 鈴木 素之 【構成員】 赤松 良久 朝位 孝二 足立 亮介 大澤 高浩 太田 岳洋 楳原 京子 白水 元 辻 智大 中正 和久 森 啓年 森下 徹 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 渡邊 学歩	【部門長】 榊原 弘之 【構成員】 赤松 良久 足立 亮介 鵜 心治 楳原 京子 鶴田 良介	【部門長】 高橋 征仁 【構成員】 朝位 孝二 牛尾 裕子 大澤 高浩 太田 岳洋 白水 元 鈴木 祐麻 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正	【部門長】 牛尾 裕子 【構成員】 網木 政江 磯村 聡子 斎藤 美矢子 鶴田 良介 中正 和久 樋口 隆哉 村上 祐里香	【部門長】 山本 浩一 【構成員】 大澤 高浩 坂口 敦 白水 元 鈴木 素之	【部門長】 大澤 高浩 【構成員】 赤松 良久 鈴木 賢士 山本 浩一

【構成員】以下50音順

2. 全体活動報告

2-1. 概要

地域防災・減災センターでは 2021 年度に国内向けの講演会 5 回、セミナー4 回、報告会 1 回、国際セミナー・シンポジウムを 4 回開催し、合計 2,323 名が参加した。また、地域貢献活動も行った。詳細を 2-2 に示す。また会計報告を 2-3 に示す。

2-2. 活動報告

2-2-1. 講演会

最新の防災・減災の知識を広く一般に提供することを目的として、防災・減災に関わる様々な分野の専門家を講師に招き、新たに地域防災・減災センター「防災・減災講演会」シリーズをスタートした（グローバル環境・防災学研究会と共催）。2021 年度は表 3 に示すとおり幅広い分野の専門家による講演会を 5 回開催し、民間企業、大学、その他一般から合計 1,543 名が参加した。なお、本講演会は公益社団法人土木学会認定 CPD（継続教育）プログラムとなっており、希望する受講者には単位認定の受講証明書を発行し、技術者の継続教育にも貢献した。

表 3 2021 年度「防災・減災講演会」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 1 回	2021 年 5 月 11 日 15:00-17:00 Web 開催（Zoom ウェビナー）	講師：矢守 克也 氏（京都大学防災研究所・巨大災害研究センター 教授） 演題：「避難スイッチ」・「セカンドベスト」・「素振り」を通して考える水害避難 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202105271.html	257 名
第 2 回	2021 年 9 月 17 日 17:50-19:20 Web 開催（Zoom ウェビナー）	講師：森口 周二 氏（東北大学災害科学国際研究所 准教授） 演題：東北地方における令和元年東日本台風の被害とその再現解析 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202110111.html	249 名
第 3 回	2021 年 11 月 22 日 15:00-16:30 常盤キャンパス D11 教室での講演を Web 配信（Zoom ウェビナー）	講師：中北 英一 氏（京都大学防災研究所所長、教授） 演題：豪雨災害と気候変動適応 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202201121.html	379 名（内 対面 26 名）

第4回	2022年2月1日 15:00-17:00 Web開催（Zoom ウェビナー）	講師：桑野 玲子 氏（東京大学生産技術研究所 教授） 演題：成熟都市で頻発する道路陥没の現況と対策 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202202241.html	354名
第5回	2022年3月9日 15:00-17:00 Web開催（Zoom ウェビナー）	講師：板場 智史 氏（国立研究開発法人産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 地震地下水研究グループ 主任研究員） 演題：南海トラフ地震予測に向けた研究の現状と予測可能性 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202203311.html	304名

2-2-2. セミナー

2020年度の第1回、第2回に続き、表4に示すとおり「時間防災学※セミナー」を2回開催し、民間企業、大学、その他一般から合計341名が参加した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。本セミナーは防災・減災講演会と同様、土木学会認定CPDプログラムとなっている。

また、保健衛生部門が主催となり、メンバーの能力向上のため実装研究セミナーを実施した。

※時間防災学とは

本学が掲げる「時間学」と「防災学」を融合し、100～1000年の時間スケールで災害の起こり方と防災のあり方を考究する学術領域。工学、理学だけでなく歴史学、考古学、地理学、社会学、経済学、農学、医学など様々な分野の研究者を集め、文理融合した新しい防災研究領域として開拓していくことを目指している。

表4 2021年度「時間防災学セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第3回	2021年7月28日 17:00-18:00 Web開催（Zoom ウェビナー）	講師：樋口 輝久 氏（岡山大学学術研究院 環境生命科学学域 准教授） 演題：歴史的砂防施設“砂留”の実態調査にもとづく土砂災害危険地域の抽出と災害発生頻度の推定 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202108241.html	150名
第4回	2021年10月27日 17:00-18:00 Web開催（Zoom ウェビナー）	講師：宍倉 正展 氏（国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門 海溝型地震履歴研究グループ 研究グループ長） 演題：地質痕跡から探る過去の巨大地震と将来予測 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202111291.html	191名

■ 実装研究セミナー

実施日時・場所：2021年11月26日 医学部保健学科

参加者数：8名

講師および演題：

講師：今村 晴彦 氏（東邦大学医学部 社会医学講座衛生学分野 助教）

第1部演題：地域に『ベストプラクティス』を根付かせる～実装科学の考え方と活かし方～

第2部演題：実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）の活用方法について

2-2-3. 報告会

2021年4月に発生した東ティモールでの洪水被害を受けて、イリディオ・シメネス・ダ・コスタ駐日東ティモール民主共和国大使ご臨席のもと緊急報告会を開催した。以下に概要を示す。

■ 東ティモール洪水緊急報告会

<http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202106281.html>

実施日時・場所：2021年5月29日 12:30-16:00 Web開催（Zoom ミーティング）

共催：東ティモール国立大学工学部、工学部社会建設工学科、グローバル環境・防災学研究会

参加者数：197名

講演内容：

1. 「導入・経緯説明」
関根雅彦（山口大学工学部社会建設工学科教授）
2. 「JICA 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト・フェーズ 2（CADEFEST2）紹介」
嶋川晃一（JICA CADEFEST 2 チーフアドバイザー、岐阜大学名誉教授）
3. 「東ティモール洪水被害の概要」
後藤光（JICA 東ティモール事務所長）
4. 「東ティモール現地調査報告 1ー痕跡水位調査」
Benjamim Hopffer Martins（東ティモール国立大学工学部講師）
5. 「東ティモール現地調査報告 2ーその他被害」
Aleixo Sarmiento（東ティモール国立大学工学部講師）
6. 「気象状況と画像から判断した氾濫メカニズムについて（速報）」
朝位孝二（山口大学工学部社会建設工学科教授）
7. 「2021年4月東ティモール豪雨における洪水・土石流再現シミュレーション」
赤松良久（山口大学工学部社会建設工学科教授）
8. 「衛星データで見る東ティモールの被災状況」
白水元（山口大学工学部社会建設工学科助教）

ディスカッション

「防災分野における東ティモール国立大学との協働に向けて」

座長：鈴木素之（山口大学工学部社会建設工学科教授、地域防災・減災センター長）

ゲストコメンテーター：

風間秀彦（JICA CADEFEST チーフアドバイザー、埼玉大学元教授）

嶋川晃一（JICA CADEFEST 2 チーフアドバイザー、岐阜大学名誉教授）

富本幾文（山口大学国際戦略室副室長）

石渡幹夫（東京大学客員教授）

2-2-4. 国際セミナー・シンポジウム

2020 年度に引き続き、第 2 回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナーと YU-UCL シンポジウムを開催した。以下に概要を示す。また 2021 年度から「国際防災・環境セミナー」シリーズとして、国際的な防災・減災、環境問題に取り組む国内外の専門家を招いたセミナーを開催している。表 5 に示すとおり 2021 年度は 2 回開催し、合計 137 名が国内外から参加した。

■ 第 2 回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー (The 2nd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment)

<http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2022/t202204042.html>

http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/en/previoustopic/topic_202204071.html

実施日時・場所：2022 年 3 月 7 日 10:50-17:30 Web 開催 (Zoom ミーティング)

共催：工学部社会建設工学科、グローバル環境・防災学研究会

参加者数：64 名 (アフガニスタン、インドネシア、中国、日本、バングラデシュ、東ティモール、ベトナムの 7 か国)

講演者および演題：

【招待講演】

1. Prof. Masato Shinji, Vice-President for International Cooperation, Yamaguchi University
“Future vision of international collaboration at Yamaguchi University”
2. Prof. Ikufumi Tomimoto, Deputy Director, Office for International Affairs Strategy, Yamaguchi University
“SDGs and natural disaster; poverty and income gap”

【特別セッション：2021 年 4 月に東ティモールで発生した洪水災害】

1. Dr. Benjamim Hopffer Martins, Lecturer, Universidade Nacional Timor Lorosa'e, Timor-Leste
“Disaster risk reduction challenges in Timor-Leste”
2. Mr. Hugo Ximenes, Lecturer, Universidade Nacional Timor Lorosa'e, Timor-Leste
“Flood damage in the middle reach of the Manleuana river in Dili, Timor-Leste”
3. Mr. Oktoviano Viegas Tilman, Vice-president, Institute of Petroleum and Geology (IPG), Timor-Leste
“Geological hazard and its implication for the sustainability development in Timor-Leste”

【山口大学卒業生・在学生による口頭発表セッション】

1. Dr. I Nyoman Sudi Parwata (Udayana University, Indonesia)
“Surface Deformation Monitoring Induced by Volcanic Activity of Mount Agung, Indonesia, by PS-InSAR Using Sentinel-1 SAR from 2014-2021”
2. Dr. Ni Made Pertiwi Jaya (Udayana University, Indonesia)
“Application of GIS and Remote Sensing in Water-Related Hazard Management”
3. Mr. Muhammad Haidar (Geospatial Information Agency of Indonesia & The University of Tokyo)
“Automated Building Footprint Segmentation using Deep Learning for Disaster Rapid Mapping”
4. Ms. Mengqi Huang (Yamaguchi University)
“Reflection of Zhengzhou Flooding”
5. Dr. Rafiani Hasyim (Plantation Agency of Bengkalis Regency, Indonesia)

“The Role, Strategy and Policy of Plantation Development in Bengkalis Regency”

6. Mr. Shiro Jimbo (Tokyo Engineering Consultants Co., LTD.)

“Differences between Countries in Disaster Prevention for Water Supply System”

7. Mr. Kabir A. H. M. Enamul (Yamaguchi University)

“Microplastic Pollution in the Marine and Riverine Environments in Yamaguchi: Abundances and Distributions, Sources-to-Sinks, and Ecological Risks”

■ YU-UCL シンポジウム “Health and the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami”

https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport_eng.html

実施日時・場所：2022年3月11日 18:00-20:45 Web開催（Zoom ミーティング）

共催：Institute for Risk and Disaster Reduction (IRDR), University College London (UCL)、応用衛星リモートセンシング研究センター

参加者数：33名（7か国）

講演者および演題：

1. Prof. Ilan Kelman, Institute for Risk & Disaster Reduction and Institute for Global Health, University College London, UK
“Mental Health after the Great East Japan Earthquake and Tsunami”
2. Prof. Yuko Ushio, Community/Public Health Nursing, Yamaguchi University, Japan
“Contributions of Nursing Colleges to Disaster: - The Experience of Hanshin-Awaji and Great East Japan Earthquake”
3. Prof. Joanna Faure Walker, Institute for Risk & Disaster Reduction, Faculty of Maths & Physical Sciences, University College London, UK
“Post Disaster Shelter and Housing - Needs and Choices”
4. Ms. Amiki Masae, Lecturer, Yamaguchi University, Japan
“Shelter Environment and Health Problems in Japan, Fundamental Nursing”
5. Tiziana Rossetto, Professor of Earthquake Engineering, University College London, UK
“Tsunami Risk Index for Hospitals”
6. Motoki Fujita, Associate Professor, Acute and General Medicine, Yamaguchi University, Japan
“Disaster Medical Assistance Team in Japan - A Case Study in Kumamoto”
7. Louise Elstow, PhD Researcher, Lancaster University, UK, and Emergency Management Consultant
“Understanding Individual Radiation Risk - Personal Dosimetry Systems and the Fukushima Nuclear Disaster”

表 5 2021 年度「国際防災・環境セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 1 回	2021 年 7 月 15 日 17:50-19:20 Web 開催 (Zoom ウェビナー)	講師：甲山 治 氏 (京都大学東南アジア地域研究 研究所 准教授) 演題：草の根技術協力の実績を活かした熱帯泥炭地 における水文・気象情報管理システムの開発 http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202108181.html	71 名
第 2 回	2021 年 9 月 28 日 15:30-17:00 Web 開催 (Zoom ウェビナー)	講師：Prof. Nur Islami, University of Riau, Indonesia 演題：The Use of Integrated Geophysical Methods for Groundwater Exploration http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202110181.html http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/en/previoustopic/topic_202110221.html	66 名

2-2-5. 地域・社会貢献活動

地域・社会貢献活動の一環として、以下のとおり視察の受け入れ、防災学習ならびに研修を行った。

■ 岩国市議会防災・減災対策推進調査特別委員会の視察受け入れ

<http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202109082.html>

2021 年 8 月 20 日、視察のため常盤キャンパスに来学した岩国市議会藤本泰也議長ならびに防災・減災対策推進調査特別委員会（河合伸治委員長，山本辰哉副委員長ほか委員 8 名）に対し、鈴木素之センター長およびメンバー 7 名がセンターの紹介および洪水，土砂災害，地震等の災害についての講義を行った。

■ 美祢市淳美小学校における防災学習

美祢市淳美小学校からの要望を受け、避難計画のアドバイス、防災学習の打ち合わせ、現地調査などを行った。

■ 保健衛生部門下関市長府地区まちの減災ナース育成研修

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

2021 年 9 月 26 日、10 月 31 日、11 月 21 日、12 月 19 日、保健衛生部門が主催となり（共催：下関市、後援：山口大学地域防災・減災センター、下関市社会福祉協議会、山口県災害看護研究会、協賛：長府地区まちづくり協議会、長府東部地区まちづくり協議会、下関市防災士連絡会）、下関市長府公民館において「まちの減災ナース」育成研修会を実施した。4 回の研修を経て、山口県初となる「まちの減災ナース」11 名が誕生した。

2-2-6. 他団体との連携

グローバル環境・防災学研究会が開催する4月19日の「令和2年7月豪雨災害調査報告会」、11月16日の山口大学グローバル環境・防災学研究会主催シンポジウム「建設分野におけるAI活用の最前線」を共催した。また、自然災害研究協議会中国地区部会の研究発表会を以下のとおり共催した。

■ 自然災害研究協議会中国地区部会

地域防災・減災センターが共催となり2022年3月13日に第8回自然災害研究協議会中国地区部会研究発表会がオンラインで開催され、同時にYouTubeでストリーミング配信も行われた。内容は多岐にわたり、遊水地整備計画、深層学習を用いた研究、東ティモールの豪雨災害、広島県の豪雨災害など全部で17件の研究発表が行われた。いずれの発表においても活発な質疑が交わされた。また、広島工業大学教授の田中健路氏による特別講演「日本における気象津波の発生メカニズム」も行われた。なお、研究論文集は下記URLから閲覧できる。

https://yamaharu-nds.jp/ndic_chugoku/

2-2-7. 広報

2021年度は地域防災・減災センターのホームページのメニュー項目を増やし、コンテンツを増やした。また英語ページを新設した。さらに地域防災・減災センターの活動を広く知ってもらうため、Facebookページを新設した。

日本語 HP : <https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index.html>

英語 HP : https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index_eng.html

Facebook : <https://www.facebook.com/Yamaguchi.Univ.CLDPM>

2-3. 会計報告

センターの 2021 年度の収入および支出を以下に示す。

費目	内訳	金額	備考
<u>収入</u>			
運営交付金		5,800,000	
収入総額：		5,800,000	
<u>支出</u>			
設備備品費	D-RTK 2 モバイルステーション一式	348,142	
	ハンディジオスライサー一式	345,400	
	ノート PC 一式	301,750	
消耗品費	ドローン周辺機器一式	90,615	
	飛沫防止スタンド一式	79,992	5 台セット
	ソフトウェア、PC モニター、ウェブ 配信用機器、文具、事務用品	177,365	
人件費	学術研究員（1 名、2021/4/1～ 2022/3/31）、事務補佐員（1 名、 2021/12/1～2022/3/31）	3,232,228	
謝金	講師謝金（10 名）	237,250	
	学生謝金（1 名）	3,870	
旅費	講師旅費（2 名）	84,300	
	出張旅費（4 名）	2,964	
賃借料	乾式エアーサンプラーレンタル料	599,610	7～9 月分
印刷製本費	印刷製本費	105,930	アンケート調査票、講演 会資料
外注費	ウェブアンケート調査外部委託費	64,730	
通信費	郵便料金	61,710	
諸経費	土木学会 CPD プログラム認定料	36,000	6 回×6,000 円
	建設系プログラムサイト掲載料	18,000	6 回×3,000 円
会議費	会議飲食費	10,144	講演会講師弁当・お茶代
支出総額：		5,800,000	
収入－支出（差引残高）：		0	

3. 部門活動報告

3-1. 研究成果概要

1) 被災ポテンシャルの歴史的変遷の把握（自然災害部門）

当年度は、地質による土砂・洪水氾濫状況の違いを検討するため、後背地に花崗岩以外の地質が分布する地域として、広島市黒瀬地区（白亜紀流紋岩）および山口県防府市富海地区周辺（トリ阿斯紀～ジュラ紀変成岩）を選定し、過去の土石流・洪水堆積物調査を実施した。また、富海地区については、発生場の地形的条件の違いを検討するため、現地調査に加えて高精細地形データを用いた地形解析を実施した。さらに、広島県東広島市および山口県周南市・防府市における遺跡分布と災害の関連について検討した。その結果、流紋岩地帯の土石流発生頻度は、年代誤差はあるものの、およそ 100～300 年であり、花崗岩地帯の 150～400 年と大差ないようであること、メッシュサイズ 2m の細密 DEM は地形を詳細に捉えられるものの、谷地形の抽出には基盤地図情報から得られるより大きいメッシュサイズの DEM が適していること、対象地域においては、土砂災害リスクが高いものの、周知の遺跡の分布が稀であることを示した。この他に、2018 年に発生した広島県呉市の土砂災害を対象に、山間部の地表の変化検出を行うとともに、ALOS-2 (SAR 衛星) を用いて差分干渉 SAR 解析 (DInSAR) を実施し、被災地の検出を試みた。

2) 防災に携わる海外研究者とのネットワークの確立（国際防災部門）

山口大学を卒業した留学生を中心に、防災に携わる海外研究者とのネットワークを確立するため 2021 年 3 月に開催した第 1 回目に引きつづき、2022 年 3 月に「The 2nd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment」と題する国際セミナーを開催した（詳細は 2-2-4 参照）。これに先立ち 2021 年 3 月開催の第 1 回の会議をきっかけとして、参加者の多くと SNS を通じて相互に連絡取り合える体制ができたが、直後の 2021 年 4 月に東ティモールで発生した土砂災害について、オンライン緊急報告会を JICA 東ティモール事務所長および駐日東ティモール民主共和国大使閣下を招いて 2021 年 6 月に実施した（詳細は 2-2-3 参照）。

また、JSPS 二国間交流事業共同研究において、部門長の山本浩一がインドネシアのリアウ大学と共同で「泥炭地堆積物の輸送力学の確立」に関する研究を行っており、インドネシア泥炭地の海岸浸食のメカニズムの解明に取り組んでいる。

3) 「まちの減災ナース育成研修」による地区防災福祉コミュニティづくりの支援とモデル開発（保健衛生部門&リスクマネジメント部門）

宇部市をフィールドに、地域住民及び行政等との協働・共助による校区単位の安全・安心のコミュニティづくりの支援に取り組んだ。これは水害などを想定した防災モデル開発プロジェクトとして実施した。

「まちの減災ナース」は、日本災害看護学会が 2019 年度より指導者育成を開始している。災害平穏期には、地域や地区の防災計画をふまえ、行政担当者や住民と共に、看護の専門性を生かした減災活動に取り組み、災害発生時には被災地域の住民の健康と生活を支援する役割を担う。

このプロジェクトでは「まちの減災ナース育成研修」を、小学校区を設定し、校区内在勤在住

の看護職を対象に、地区住民の参加や協力を得て開催することで、防災と福祉を統合したコミュニティづくりをねらった。まちの減災ナース育成研修は、2021年9～12月に下関市において県内で初めて実施した。この研修のプロセスと結果を参考に、宇部市内においてコミュニティづくりをねらうプロジェクト計画に修正し、関係者との調整と参加者募集を行った。2022年1月末以降3回計画で予定だったが、急速なコロナ感染拡大のため延期とした。宇部市における同研修は2022年度に実施予定である。

本プロジェクトは、EBI（Evidence-Based Intervention 根拠のある取り組み）を現場に根付かせるための戦略を明らかにする、実装研究のフレームワークをもとに計画した。これにより他地域に横展開可能な防災福祉コミュニティづくりモデルの開発をめざしている。

4. 個人活動報告

メンバーの活動について、A. 学術雑誌等、B. 国際会議における発表、C. 国内学会・シンポジウム等における発表、D. 学会運営等、E. 報道関係、F. 表彰・評価関係、G. 獲得研究費に分けて以下に示す。なお、A～Cについては主要なものを抜粋して掲載している。

A. 学術雑誌等

著者名、発表論文名、学会誌名、発表年月巻号等	査読
鈴木 素之	
石丸太一, <u>鈴木素之</u> , 高野翔太. 濁度を利用した細粒分流出実験における移動土粒子の粒度組成とその時間変化. 地盤工学ジャーナル. 2022, 17(1), 47-60.	有
Nguyen, T. D., <u>Suzuki, M.</u> Rate Effects on Peak and Residual Strengths of Overconsolidated Clay in Ring Shear Tests. Periodica Polytechnica Civil Engineering. 2022, 66(1), 298-309.	有
Moriguchi, S., Matsugi, H., Ochiai, T., Yoshikawa, S., Inagaki, H., Ueno, S., <u>Suzuki, M.</u> , Tobita, Y., Chida, T., Takahashi, K., Shibayama, A., Hashimoto, M., Kyoya, T. Survey report on damage caused by 2019 Typhoon Hagibis in Marumori Town, Miyagi Prefecture, Japan. Soils and Foundations. 2021, 61(2), 586-599.	有
牛尾 裕子	
Shiomi, M., Yoshioka-Maeda, K., Kotera, S., <u>Ushio, Y.</u> , Takemura, K. Factors associated with the utilization of community assessment models among Japanese nurses. Public Health Nursing. 2021, 39(2), 464-471.	有
李錦純, 山本大祐, 真鍋雅史, 増野園恵, 木村真, <u>牛尾裕子</u> , 森菊子. 人口減少と高齢化が進む中山間地域在住高齢者における訪問看護認知度とその関連項目の検討. 厚生生の指標. 2021, 68(4), 17-24.	有
榊原 弘之	
<u>榊原弘之</u> , 高崎凌. 住民の主観的認識に基づいた地方中小都市のにぎわい・中心性の評価に関する研究. 土木計画学研究・講演集. 2021, 64, 1-7.	
Huo Mingming, <u>榊原弘之</u> . トピックモデルによる訪日中国人観光客の旅行経験の分析—中国国内の観光ウェブサイト上の旅行記より—. 土木計画学研究・講演集. 2021, 1-10.	
Huo Mingming, <u>榊原弘之</u> . 中国国内での Web アンケート調査による訪日旅行経験の分析. 土木計画学研究・講演集. 2021, 63.	
赤松 良久	
福丸大智, <u>赤松良久</u> , 新谷哲也, 藤井晴香. 深層学習を用いた流域内多地点における河川水位・流量予測モデルの開発. 土木学会論文集 B1(水工学). 2021, 77(2), I_1231-I_1236.	有

大中臨, <u>赤松良久</u> , 矢野真一郎, 二瓶泰雄, 山田真史, 佐山敬洋. 令和 2 年 7 月豪雨における球磨川渡-人吉地区の河川氾濫の実態解明. 土木学会論文集 B1(水工学). 2021, 77(1), 203-214.	有
神谷大介, <u>赤松良久</u> , 赤星拓哉, 吉田護. 令和 2 年 7 月豪雨における老人介護福祉施設の対応と課題. 土木学会論文集 B1(水工学). 2021, 77(1), 143-149.	有
朝位 孝二	
西山浩司, 白水元, <u>朝位孝二</u> . 自己組織化マップに基づく九州地方における豪雨の発生時間帯の傾向に関する分析. 土木学会論文集 B1(水工学), 2021, 77(2), I_1135-I_1140.	有
<u>朝位孝二</u> , 白水元, 西山浩司. 自己組織化マップを用いた南九州で豪雨をもたらした気象場パターンの分類. 土木学会論文集 B1 (水工学), 2021, 77(1), 111-123.	有
若澤啓太, <u>朝位孝二</u> . 防災教育のためのカラー化された災害写真の利用に関する研究. 自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集, 2022, 8, 21-24.	
足立 亮介	
Eiji Masuda, Yuji Wakasa, <u>Ryosuke Adachi</u> . Adaptive Piyavskii-Shubert Algorithm and Its Application to Maximum Power Point Tracking Control. Journal of Control, Automation and Electrical Systems. 2022, 1-12.	有
<u>Ryosuke Adachi</u> , Yuh Yamashita, Koichi Kobayashi. Distributed Optimal Estimation with Scalable Communication Cost. IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences. 2021, E104A(11), 1470-1476.	有
Wakasa Y., Nakatani K., Murakami S., <u>Adachi R.</u> Data-driven tuning of LSTM controllers for systems with nonlinearities. ICIC Express Letters. 2021, 15(5), 421 - 427.	有
網木 政江	
白蓋真弥, <u>網木政江</u> , 浅海菜月, 桐明祐弥, 生田奈美可, 安達圭一郎, 田中愛子. 新型コロナウイルス感染症拡大下における A 大学看護学生の卒業時看護実践能力到達度に関する調査ー自己評価表を用いてー. 山口医学. 2021, 70(4) 165-173.	有
鵜 心治	
吉田雪乃, <u>鵜心治</u> , 小林剛士, 宋俊煥, 白石レイ. ポートランド市のコンパクトシティ政策からみた広域都市圏における立地適正化計画策定支援手法に関する研究. 日本建築学会計画系論文集. 2021, 86(782), 1240-1251.	有
小林剛士, <u>鵜心治</u> , 宋俊煥, 白石レイ, 杉原礼子, 吉田雪乃. 米国オレゴン州ポートランドにおけるストリートフード事業にみる低未利用地の活用手法. 日本建築学会計画系論文集. 2021, 86(784), 1692-1703.	有
磯村 聡子	
<u>磯村聡子</u> , 守田孝恵, 斎藤美矢子, 村上祐里香. COVID-19 の影響下でオンラインを利用した公衆衛生看護学実習の成果と課題. 山口医学. 2022, 71(1), 5-14.	有
<u>磯村聡子</u> , 守田孝恵. 中堅期保健師の地域診断に基づく PDCA 実践力向上を目指した研修の評価. 保健医療科学. 2021, 70(5), 587-597.	有

太田 岳洋	
福岡仁至, <u>太田岳洋</u> , 辻智大. 九重火山 54ka 噴火の前駆的活動によるテフラの特徴 (予報). 月刊地球. 2021, 43(8), 443-449.	
<u>太田岳洋</u> . 災害地質学における地生態学的側面. 地質工学. 2021, 18, 1-8.	
<u>太田岳洋</u> . 山口県における災害地質研究―地生態学的検討事例―, 山口地学会誌, 2021, (83), 1-6.	
大澤 高浩	
I. G. A. I. Mahasani, <u>T. Osawa</u> , I. W. S. Adnyana, A. A. M. A. P. Suardana, Chonnaniya. Carbon stock estimation and mapping of mangrove forest using ALOS-2 PALSAR-2 in Benoa Bay Bali, Indonesia, IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science, 2021, 944, 012044, doi:10.1088/1755-1315/944/1/012044.	
N. Gustantia, <u>T. Osawa</u> , I. W. S. Adnyana, D. Novianto, Chonnaniyah. Spatial-temporal habitat suitability for lemur fish (<i>Sardinella lemuru</i>) using the Second-generation Global Imager (SGLI) and Maximum Entropy model in the Bali Strait, Indonesia, IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science, 2021, 944, 012066, doi:10.1088/1755-1315/944/1/012066.	
Chonnaniyah, I. W. G. A. Karang, <u>T. Osawa</u> . Internal solitary waves propagation speed estimation in the northern-part of Lombok Strait observed by Sentinel-1 SAR and Himawari-8 images, IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science, 2021, 944, 012042, doi:10.1088/1755-1315/944/1/012042.	
楮原 京子	
<u>楮原 京子</u> . 「地域の中で学び、発信する」態度の育成を目指した総合的な学習の時間における防災学習―柳井市立柳井西中学校での実践―. 山口大学教育実践総合センター研究紀要, 2022, 第 53 号.	
鈴木素之, <u>楮原京子</u> , 松木宏彰, 川島尚宗. 山口県周南市島田川沿いの土石流・洪水氾濫の状況と堆積物の特徴. 地盤と建設. 2021, 39(1) 113-120.	有
斎藤 美矢子	
磯村聡子, 守田孝恵, <u>斎藤美矢子</u> , 村上祐里香. COVID-19 の影響下でオンラインを利用した公衆衛生看護学実習の成果と課題. 山口医学. 2022, 71(1), 5-14.	有
坂口 敦	
Philip W. Gassman, Jaehak Jeong, Julien Boulange, Balaji Narasimhan, Tasuku Kato, Hiroaki Somura, Hirozumi Watanabe, Sadao Eguchi, Yuanlai Cui, <u>Atsushi Sakaguchi</u> , Le Hoang Tu, Rui Jiang, Min-Kyeong Kim, Jeffrey G. Arnold, Wei Ouyang. Simulation of rice paddy systems in SWAT: A review of previous applications and proposed SWAT+ rice paddy module. International Journal of Agricultural and Biological Engineering. 2022, 15(1), 1-24.	有
<u>坂口敦</u> , 辻卓弥, 藤井理樹, 荒木英樹, 高橋肇, 水田転換畑における土壌の乾燥と気孔コンダクタンスを用いたダイズの水ストレスの関係の観測および観測時刻別モデル化. 土壌の物理性, 2021, 149, 3-12.	有

白水 元	
西山浩司, <u>白水元</u> , 朝位孝二. 自己組織化マップに基づく九州地方における豪雨の発生時間帯の傾向に関する分析. 土木学会論文集 B1(水工学), 2021, 77(2), I_1135-I_1140.	有
朝位孝二, <u>白水元</u> , 西山浩司. 自己組織化マップを用いた南九州で豪雨をもたらした気象場パターンの分類. 土木学会論文集 B1 (水工学), 2021, 77(1), 111-123.	有
朝位孝二, <u>白水元</u> . 2021 年 4 月サイクロン Seroja による東ティモール首都ディリの被災: 衛星リモートセンシングによる調査. 自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集, 2022, 8, 29-32.	
鈴木 祐麻	
藤井健太, 長野航大, <u>鈴木祐麻</u> , 新苗正和. 1 級および 2 級アミンによるスズ(II)添加塩化物水溶液からのロジウムおよびルテニウムの溶媒抽出特性. 環境資源工学. 2022, 68(3), 105-110.	有
<u>Suzuki, T.</u> , Yamate, T., Hara, J., Wada, K., Niinae, M. Inactivation of bacteria using Fe ³⁺ -loaded montmorillonite. Journal of Environmental Chemical Engineering. 2021, 9(4), 105637.	有
<u>Suzuki, T.</u> , Harada, M., Wada, Y., Ichimura, S. Enhancement of solute removal efficiency of polyamide reverse osmosis membrane without water permeability loss. Journal of Environmental Chemical Engineering. 2021, 9(6), 106818.	有
高橋 征仁	
Goodwin, R., Ben-Ezra, M., <u>Takahashi, M.</u> , Luu, L. A. N., Borsfay, K., Kovács, M., Hou W. K., Hamama-Raz Y., Levin, Y. Psychological factors underpinning vaccine willingness in Israel, Japan and Hungary. Scientific Reports. 2022, 12(1), 1-9.	有
辻 智大	
大澤研斗, <u>辻智大</u> . 山口県における Aso-4 火砕流の堆積温度－炭化木片による推定－. 山口地学会誌. 2021, 83, 7-13.	
福岡仁至, 太田岳洋, <u>辻智大</u> . 九重火山 54ka 噴火の前駆的活動によるテフラの特徴(予報). 月刊地球. 2021, 43(8), 443-449.	
中正 和久	
Nobuhiro Shimoi, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Carlos Cuadra. Piezoelectric Joint Sensors Shape to Sensor Response Characteristics by FEM Analysis and Measuring Result. Journal of Civil, Construction and Environmental Engineering. 2022, 7(1), 1-7.	有
Shimoi, N., <u>Nakasho, K.</u> , Wasaki, K. Low-Cost Sensor System with Life Signals for Bed Monitoring. International Journal of Science and Engineering Investigations. 2021, 10(116), 45-50.	有
下井信浩, Cuadra, C., <u>中正和久</u> . ピエゾ接合センサを用いた柱脚の溶接部における変位測定比較. 計測自動制御学会論文集. 2021, 57(5), 253-259.	有

樋口 隆哉	
Rafitah Hasanah, Tsuyoshi Imai, Ariyo Kannno, <u>Takaya Higuchi</u> , Masahiko Sekine, Koichi Yamamoto. Screening Microorganisms for Phosphorous Removal in Saline Wastewater. Pollution Research. 2021, 40(2), 526-534.	有
Sativandi Riza, Masahiko Sekine, Ariyo Kanno, Koichi Yamamoto, Tsuyoshi Imai, <u>Takaya Higuchi</u> . Modeling soil landscapes and soil textures using hyperscale terrain attributes. Geoderma. 2021, 402, 115177.	有
A. H. M. Enamul Kabir, Masahiko Sekine, Tsuyoshi Imai, Koichi Yamamoto, Ariyo Kanno, <u>Takaya Higuchi</u> . Assessing small-scale freshwater microplastics pollution, land-use, source-to-sink conduits, and pollution risks: Perspectives from Japanese rivers polluted with microplastics. Science of the Total Environment. 2021, 768, 144655.	有
村上 祐里香	
磯村聡子, 守田孝恵, 斎藤美矢子, <u>村上祐里香</u> . COVID-19 の影響下でオンラインを利用した公衆衛生看護学実習の成果と課題. 山口医学. 2022, 71(1), 5-14.	有
森 啓年	
Enomoto, T., Horikoshi, K., Ishikawa, K., <u>Mori, H.</u> , Takahashi, A., Unno, T., Watanabe, K. Levee damage and bridge scour by 2019 typhoon Hagibis in Kanto Region, Japan. Soils and Foundations. 2021, 61(2), 566-585.	有
山本 浩一	
A. H. M. Enamul Kabir, Masahiko Sekine, Tsuyoshi Imai, <u>Koichi Yamamoto</u> , Ariyo Kanno, Takaya Higuchi. Assessing small-scale freshwater microplastics pollution, land-use, source-to-sink conduits, and pollution risks: Perspectives from Japanese rivers polluted with microplastics. Science of the Total Environment. 2021, 768, 144655.	有
Muhamad Yusa, <u>Koichi Yamamoto</u> , Atsushi Koyama, Sigit Sutikno, Ferry Fatnanta, Manyuk Fauzi, Besri Nasrul. Geotechnical Characterization of Bengkalis' Peat Using Portable Tools. International Journal of Geomate. 2021, 20(80), 113-120.	有
Sigit Sutikno, Ilham Ziaulhaq, Rinaldi, <u>Koichi Yamamoto</u> . Physical Modelling for the Analysis of Wave Characteristics on Tropical Peat Coast. Journal of Physics: Conference Series. 2021, Vol.2049, 012071.	有
山本 晴彦	
<u>山本晴彦</u> , 松岡光美, 渡邊祐香, 兼光直樹, 坂本京子, 岩谷潔. 2020 年 7 月の梅雨前線豪雨による福岡県大牟田市の浸水被害の特徴と土地利用の時空間的変遷. 時間学研究. 2021, 12, 1-30.	有
兼光直樹, <u>山本晴彦</u> , 渡邊祐香. 2012 年 7 月九州北部豪雨で被災した熊本市陳内地区における白川改修後の住民移転に関するアンケート調査. 自然災害科学. 2021, 40(S08), 11-29.	有

山本晴彦, 渡邊祐香, 兼光直樹, 坂本京子, 岩谷潔. 2020 年 7 月の梅雨前線豪雨により熊本県球磨村の渡地区で発生した洪水災害の被害調査. 自然災害科学. 2021, 40(1), 103-122.	有
吉本 憲正	
Xu, J., Xu, C., <u>Yoshimoto, N.</u> , Hyodo, M., Kajiyama, S., Huang, L. Experimental Investigation of the Mechanical Properties of Methane Hydrate-Bearing Sediments under High Effective Confining Pressure. Journal of Geotechnical and Geoenvironmental Engineering. 2022, 148(3), 04021190.	有
原弘行, <u>吉本憲正</u> , 狩生卓玲. 海水環境下におけるセメント処理土の劣化促進手法の拡張とその手法による強度・変形特性の再現性. 土木学会論文集 C(地圏工学), 2021, 77(4), 325-333.	有
Wu, Y., Cui, J., Huang, J., Zhang, W., <u>Yoshimoto, N.</u> , Wen, L., Correlation of Critical State Strength Properties with Particle Shape and Surface Fractal Dimension of Clinker Ash. International Journal of Geomechanics. 2021, 21(6), 04021071.	有
渡邊 学歩	
有本和央, <u>渡邊学歩</u> , 有井賢次. 隣接構造との衝突によって生じる RC 床版内の伝播応力度に及ぼす上部構造の応答速度の影響. コンクリート工学年次論文集. 2021, 43(2), 565-570.	有
SHAO Peilun, <u>渡邊 学歩</u> , 幸左 賢二. 軸方向鉄筋のフーチングからの伸び出しが RC 柱の曲げ変形挙動に及ぼす影響に関する非線形有限要素解析に基づく研究. 土木学会論文集 A1(構造・地震工学), 2021, 77(4), I_503-I_518.	有
有井賢次, <u>渡邊学歩</u> , 幸左賢二. 画像解析技術を用いた斜張橋ケーブルの振動計測. 土木学会論文集 A1(構造・地震工学), 2021, 77(4), I_626-I_637.	有

B. 国際会議における発表

著者名、発表論文名、学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等	査読
鈴木 素之	
<u>Suzuki, M.</u> , Ishimaru, T., Wakamatsu, T. Suffusion characteristics of soils affected by seepage before and after shearing in triaxial test apparatus. Proc. of the 20th International Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering 2022.	有
Nguyen, T. D., <u>Suzuki, M.</u> Multistage test procedure for determining the residual strength of soil in the ring shear test. Proc. of the 4th Asia Pacific Meeting on Near-surface Geoscience and Engineering, European Association of Geoscientists and Engineer (EAGE). 2021, 1-5.	有
Kagohara, K., <u>Suzuki, M.</u> , Matsugi, H., Sakaguchi, K. Hazard assessment focusing on periodicity of large-scale debris flow: a case study in the Cretaceous granite area of southwest Japan. Proc. of RGS-IBG Annual International Conference 2021, 2021 年 9 月 2 日.	有

牛尾 裕子	
Satoko Isomura, Taichi Sato, Mina Ishimaru, <u>Yuko Ushio</u> , Miyako Saito, Yurika Murakami, Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai. Japanese and International Trends in the Introduction of Online Learning Resources in Nursing Education. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing. 57, 2022 年 1 月 4 日.	有
<u>Yuko Ushio</u> . Contributions of Nursing Colleges to Disaster: The Experience of Hanshin -Awaji and Great East Japan EarthquakeOnline Symposium “Health and the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami”, 2022 年 3 月.	
赤松 良久	
Seiji Miyazono, Takao Kodama, <u>Yoshihisa Akamatsu</u> , Ryohei Nakao, Satsuki Tsuji. Evaluation of spatiotemporal tributary fish assemblage structure using quantitative DNA metabarcoding. Society for Freshwater Science Virtual Annual Meeting 2021. 2021 年 5 月.	
網木 政江	
<u>Masae Amiki</u> . Environmental and health problems on evacuation shelters in Japan. Online Symposium “Health and the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami”, 2022 年 3 月.	
鵜 心治	
Komoto Atsushi, <u>Ikaruga Shinji</u> , Kobayashi Takeshi, Shiraishi Rei. Demolition and Conversion of Deteriorated Public-rental Housing Complexes ‘Danchi’s in Japan. Proc. Asian-Pacific Planning Societies 2021 (CD-ROM). 2021 年 8 月.	有
Song Junhwan, Okamatsu Michio, <u>Ikaruga Shinji</u> , Kobayashi Takeshi, Shiraishi Rei. Characteristics and Issues of Underused-Land Utilization based on Transition of Shopping Street in Local City, Japan-Focused on Gintengai-Street in Central Area of Ube City, Yamaguchi Pref.-. Proc. The 17th International Conference on Computational Urban Planning and Urban Management (CD-ROM). 2021 年 6 月.	有
Hagihara Aya, <u>Ikaruga Shinji</u> , Kobayashi Takeshi, Shiraishi Rei, Yoshida Yukino. Characteristics of the City Center Revitalization Method Through the Relocation of City Hall. Proc. The 17th International Conference on Computational Urban Planning and Urban Management (CD-ROM). 2021 年 6 月.	有
磯村 聰子	
<u>Satoko Isomura</u> , Taichi Sato, Mina Ishimaru, Yuko Ushio, Miyako Saito, Yurika Murakami, Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai. Japanese and International Trends in the Introduction of Online Learning Resources in Nursing Education. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing. 57, 2022 年 1 月.	有
太田 岳洋	
Eiji Nakata, <u>Takehiro Ohta</u> . Effects of Clinopyroxene Distribution by Strong Weathering of Andesite. Proceedings of 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields. 2021 年 9 月.	有

Takehiro Ohta, Yuka Kubo Chihiro Kawakami, Kento Narita. Groundwater Chemistry controlled by Geologic Conditions at Yotei Volcano, Hokkaido, Northern Japan. Proceedings of 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields. 2021 年 9 月.	有
T. Ohta, T. Saito. Intrusion behaviour of tree roots to rock mass caused by geologic structure. The 3rd International Conference on Civil, Materials, and Environmental Engineering (ICCME 2021) (International Webinar). 2021 年 4 月.	有
大澤 高浩	
Chonnaniyah, T. Osawa, I. Wayan Gede Astawa Karang and A. R. As-Syakur. Variability of Internal Solitary Waves Detection in the Lombok Strait Observed by Sentinel-1 SAR: The Role of Monsoon, IOD, and ENSO. 2021 7th Asia-Pacific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR). 2021, pp. 1-5.	有
I. Nyoman Sudi Parwata and T. Osawa. Surface Deformation Monitoring Induced by Volcanic Activity of Mount Agung, Indonesia, by PS-InSAR Using Sentinel-1 SAR from 2014-2021. 2021 7th Asia-Pacific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR). 2021, pp. 1-4,	有
H. Abo, T. Osawa, P. Ge, A. Takahashi and K. Yamagishi. Deformation Monitoring of Large-Scale Rockfill Dam Applying Persistent Scatterer Interferometry (PSI) Using Sentinel-1 SAR Data. 2021 7th Asia-Pacific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR), 2021, pp. 1-6.	有
楮原 京子	
Kagohara, K., Suzuki, M., Matsugi, H., Sakaguchi, K. Hazard assessment focusing on periodicity of large-scale debris flow: a case study in the Cretaceous granite area of southwest Japan. Proc. of RGS-IBG Annual International Conference 2021, 2021 年 9 月.	有
斎藤 美矢子	
Satoko Isomura, Taichi Sato, Mina Ishimaru, Yuko Ushio, Miyako Saito, Yurika Murakami, Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai. Japanese and International Trends in the Introduction of Online Learning Resources in Nursing Education. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing. 57, 2022 年 1 月.	有
坂口 敦	
Atsushi Sakaguchi, Takuya Tsuji, Toshiki Fujii, Hideki Araki, Tadashi Takahashi. Hourly observation and modeling of relationship between dryness of soil and water stress of soybean measured by stomatal conductance at converted field. Pawees 2021 International Conference. 2021 年 10 月 29 日	
鈴木 賢士	
Kishita, N, T. Kawano, R. Kawamura, K. Suzuki, S. Sugimoto, T. Takahashi. Effects of secondary ice production by ice-ice collisions on the structure of winter Hokuriku clouds in Japan. ICCP2021. 2021 年 8 月.	

Shimizu, K, T. Sugidachi, <u>Suzuki, K.</u> Development of a new cloud/precipitation particle imaging radiosonde. ICCP2021. 2021 年 8 月.	
<u>Suzuki, K.</u> , T. Sugidachi, K. Shimizu. Development of a new balloon-borne sensor for the precipitation particle electric charge measurement. ICCP2021. 2021 年 8 月.	
辻 智大	
<u>Tomohiro Tsuji</u> , Karin Suzuki. Ash Transport and Deposition from 2019-2020 Eruption of Aso Volcano, Japan. The 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields (RMEGV2021). 2021 年 9 月.	有
Mayuko Nakamura, <u>Tomohiro Tsuji</u> . Reconsideration of Caldera Classification at the Summit of Olympus Mons, Mars. The 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields (RMEGV2021). 2021 年 9 月.	有
Kent Osawa, <u>Tomohiro Tsuji</u> . Deposit temperature and sedimentation process of Aso-4 pyroclastic flow deposit. The 5th International Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology in Volcanic Fields (RMEGV2021). 2021 年 9 月.	有
中正 和久	
Seitaro Mishima, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Yuuki Takano, Atsuko Miyaji. A Practical Parallel Computation in a Scalable Multiparty Private Set Intersection. The Ninth International Symposium on Computing and Networking. 332-338, 2021 年 11 月.	有
Hiroto Taniguchi, <u>Kazuhisa Nakasho</u> . Visual Studio Code Extension and Auto-completion for Mizar Language. The Ninth International Symposium on Computing and Networking (CANDAR2021). 182-188, 2021 年 11 月.	有
Daichi Yamamichi, Seigo Shigenaka, <u>Kazuhisa Nakasho</u> , Katsumi Wasaki. A Web Platform for Hosting the Mizar Mathematical Library (in press). Fifth Workshop on Formal Mathematics for Mathematicians (FMM2021). 2021 年 7 月.	有
村上 祐里香	
Satoko Isomura, Taichi Sato, Mina Ishimaru, Yuko Ushio, Miyako Saito, <u>Yurika Murakami</u> , Seiko Iwase, Satoko Suzuki, Ayano Sakai. Japanese and International Trends in the Introduction of Online Learning Resources in Nursing Education. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing. 57, 2022 年 1 月 4 日.	有
森 啓年	
T.Inui, T.Takata, <u>H.Mori</u> . Acid buffering and arsenic immobilization performances of MgO based agent for excavated acid rock. Proceedings for the Third International Symposium on Coupled Phenomena in Environmental Geotechnics. 2021 年 10 月.	有
山本 浩一	
<u>Koichi Yamamoto</u> , Hiroki Kagawa, Hiroto Mori, Yoshihisa Akamatsu, Motoyuki Suzuki, Ariyo Kanno, Sigit Sutikno, Noerdin Basir. Nature and Prevention Strategy of Coastal Peat Erosion and Coastal Peat Landslides in Tropical Coastal Peatland, Riau Province, Indonesia. 16th International Peat Congress. pp.439-445, Online, 2021 年 5 月.	有

Hiroki Kagawa, <u>Koichi Yamamoto</u> , Ariyo Kanno, Atsushi Koyama, Motoyuki Suzuki, Sigit Sutikno, Noerdin Basir, Muhammad Haidar. Peat Failure in Tropical Coastal Peatlands in Bengkalis Island. 16th International Peat Congress. pp.78-83, Online, 2021 年 5 月.	有
<u>Koichi Yamamoto</u> , Hiroki Kagawa, Ariyo Kanno, Masahiko Sekine, Noerdin Basir, Sigit Sutikno. In Situ Settling Velocity of the Suspended Peat Deposit in Tropical Peat Coast, Water and Environment Technology Conference 2021, 2021 年 8 月.	
吉本 憲正	
Wu, Q., <u>Yoshimoto, N.</u> , Nakano, N., Kajiyama, S., Xu, J., Nakata, Y. Image Analysis of Natural Gas Hydrate-bearing Sand during Shear with Different Plane Strain Shear Rate. Proceedings of the 3rd International Symposium on Coupled Phenomena in Environmental Geotechnics. 424-428. 2021 年 10 月.	有
Wu, Q., <u>Yoshimoto, N.</u> , Tumurdulam, B., Kajiyama, S., Nakata, Y., Hyodo, M. Effect of fines content and hydrate saturation on the shear rate dependence of methane hydrate- bearing sediments. Proceedings of the 31st (2021) International Offshore and Polar Engineering Conference. 289-293. 2021 年 6 月.	有

C. 国内学会・シンポジウム等における発表

著者名、発表論文名、学会名、開催場所、論文等の番号、発表年月日等	査読
鈴木 素之	
松木宏彰, <u>鈴木素之</u> , 楮原京子, 川島尚宗. 山口県島田川の洪水氾濫堆積物の特徴と形成年代. 第 56 回地盤工学研究発表会. 2021 年 7 月 15 日.	
高野翔太, <u>鈴木素之</u> , 石丸太一, 市川滋己, 松尾達也. 濁質物の粒径と分散具合が疑似浸透水の濁度値に及ぼす影響の分析. 第 73 回 2021 年度土木学会中国支部研究発表会. 2021 年 6 月.	
逢阪勇輝, <u>鈴木素之</u> , 居石和昭. 関門層群のスレーキング性と土質工学的性質の関係に関する一考察. 第 73 回 2021 年度土木学会中国支部研究発表会. 2021 年 6 月.	
牛尾 裕子	
<u>牛尾裕子</u> , 稲垣真梨奈, 水川真理子, 石井久仁子, 宮本純子, 藤田さやか, 高田大樹. 新型コロナウイルス感染症感染拡大初期において保健所保健師が経験した困難・葛藤. 第 41 回日本看護科学学会学術集会(Web 開催). 2021 年 12 月	
<u>牛尾裕子</u> , 宮本純子, 松尾香織, 藤田さやか, 水川真理子, 増野園枝, 稲垣真梨奈, 高田大樹, 立垣祐子. 軽症者等療養施設に入所した COVID-19 感染者の相談支援に関する研究第一報～感染者の不安と受けた支援～. 日本災害看護学会第 25 回年次大会(Web 開催). 2021 年 9 月.	
<u>牛尾裕子</u> , 石井久仁子, 立垣祐子. COVID-19 流行下で感染者がおかれた状況ー第二波後の保健所保健師へのインタビューで語られたエピソードー. 日本地域看護学会第 24 回学術集会. 2021 年 8 月.	

榑原 弘之	
Faizul Chasanah, <u>Hiroyuki Sakakibara</u> . Construction of the pedestrian assembly model for the evacuation from Mount Merapi eruption in rural area. 日本自然災害学会学術講演会. 2021 年 9 月 11 日.	
<u>榑原弘之</u> , 永瀬友典, 神谷大介, 赤松良久, 守田孝恵, 磯村聰子, 斎藤美也子, 村上祐里香. 介護施設における水害時避難確保計画の実効性向上のための方策検討. 土木学会中国支部研究発表会, 2021 年 6 月 13 日.	
<u>榑原弘之</u> , 山本純也. 若年層における移動選択肢の多様性に関する基礎的分析. 土木学会中国支部研究発表会. 2021 年 6 月 13 日.	
赤松 良久	
<u>赤松良久</u> . 要配慮者の警戒・避難判断支援のための中小河川水位の AI 予測システムの開発. 令和 3 年度河川情報シンポジウム. 2021 年 12 月 3 日.	
福丸大智, <u>赤松良久</u> , 新谷哲也, 藤井晴香. 深層学習を用いた中小河川における河川水位予測手法の高度化に向けた検討. 令和 3 年度土木学会全国大会第 76 回年次学術講演会. 2021 年 9 月 9 日.	
大中臨, <u>赤松良久</u> . 令和 2 年 7 月豪雨における球磨川上流域の破堤箇所周辺の氾濫再現シミュレーション. 令和 3 年度土木学会全国大会第 76 回年次学術講演会. 2021 年 9 月 9 日.	
網木 政江	
<u>網木政江</u> . 新たに構築した大学間連携 JANPU 災害連携 中国ブロックの例. 日本看護系大学協議会 災害支援対策委員会企画 災害フォーラム. 2022 年 2 月 6 日.	
<u>網木政江</u> . A 大学看護学生の災害看護の学習に対する認識と授業に関するニーズ. 日本災害看護学会第 23 回年次大会. 2021 年 9 月 4 日.	
田中愛子, 白蓋真弥, 浅海菜月, <u>網木政江</u> , 安達圭一郎. コロナ禍における A 大学の卒業時看護実践能力自己評価に関するパイロットスタディ. 第 47 回日本看護研究学会学術集会. 2021 年 8 月 21 日.	
磯村 聰子	
村上祐里香, 牛尾裕子, <u>磯村聰子</u> , 斎藤美矢子. 健康危機発生後の自治体保健師の経験に関する文献検討. 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2022 年 1 月.	有
斎藤美矢子, 牛尾裕子, <u>磯村聰子</u> , 村上祐里香. 地域の健康課題発見・事業化検討に向けた 1 歳 6 か月児健診後カンファレンス. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 2021 年 12 月.	有
<u>榑原弘之</u> , 永瀬友典, 神谷大介, 赤松良久, 守田孝恵, <u>磯村聰子</u> , 斎藤美也子, 村上祐里香. 介護施設における水害時避難確保計画の実効性向上のための方策検討. 土木学会中国支部研究発表会, 2021 年 6 月 13 日.	
太田 岳洋	
仙石南々海, <u>太田岳洋</u> . 二次元変形応力解析による 2018 年耶馬溪斜面災害の崩壊モデルの検討. 日本応用地質学会令和 3 年度研究発表会, 2021 年 10 月.	

福岡仁至, <u>太田岳洋</u> , 辻智大. 九重火山における K _j -Y と 54ka 噴火の本質物質の比較. 日本応用地質学会令和 3 年度研究発表会, 2021 年 10 月.	
熱田真一, <u>太田岳洋</u> . 豊肥地熱地域におけるメチレンブルー吸着法に基づく膨潤性粘土鉱物判定の適用例. 日本応用地質学会令和 3 年度研究発表会, 2021 年 10 月.	
楮原 京子	
<u>楮原京子</u> , 桐村喬, 小林茉由, 松多信尚. 南海トラフ地震被害想定地域における集落立地の地形特性-東北地方太平洋沖地震被災地域との比較を通して-. 2022 年日本地理学会春季学術大会, 2022 年 3 月 19 日.	
稲崎富士, <u>楮原京子</u> , 岡田真介, 中埜貴元, 松多信尚. 高分解能 S 波反射法地震探査による海岸平野下の浅部地下構造イメージング. 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, 2021 年 6 月 3 日.	
斎藤 美矢子	
村上祐里香, 牛尾裕子, 磯村聡子, 斎藤美矢子. 健康危機発生後の自治体保健師の経験に関する文献検討. 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2022 年 1 月 4 日.	有
<u>斎藤美矢子</u> , 牛尾裕子, 磯村聡子, 村上祐里香. 地域の健康課題発見・事業化検討に向けた 1 歳 6 か月児健診後カンファレンス. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 2021 年 12 月.	有
榊原弘之, 永瀬友典, 神谷大介, 赤松良久, 守田孝恵, 磯村聡子, <u>斎藤美矢子</u> , 村上祐里香. 介護施設における水害時避難確保計画の実効性向上のための方策検討. 土木学会中国支部研究発表会, 2021 年 6 月 13 日.	
坂口 敦	
<u>坂口敦</u> , 辻卓弥, 藤井理樹, 荒木英樹, 高橋肇. 土壌の乾燥とダイズの水ストレスの関係およびモデル化. 2021 年度 (第 70 回) 農業農村工学会大会講演会. 2021 年 9 月 1 日.	
鈴木 賢士	
<u>鈴木賢士</u> , 根間綾香, 原優里佳, 杉立卓治, 清水健作, 藤原正智. 新しい粒子撮像ゾンデの開発と降水粒子落下速度測定. 第 43 回日本気象学会九州支部発表会. 2022 年 3 月.	
竈本倫平, 高見和弥, <u>鈴木賢士</u> , 古川郁将. 降雪粒子直接観測およびリモートセンシングを用いた降雪雲内の微物理構造の解明に向けた観測研究. 第 43 回日本気象学会九州支部発表会, 2022 年 3 月.	
<u>鈴木賢士</u> , 古川郁将, 小田哲路, 竈本倫平. GPM 主衛星搭載二周波降水レーダ DPR プロダクト (V06X) の検証ー暖候期の雷に伴う降雨事例ー. 2021 年度日本気象学会秋季大会. 2021 年 12 月.	
高橋 征仁	
<u>高橋征仁</u> . <子ども会の危機>はどこから来るのか?ーWeb アンケートにもとづく考察. 第 51 回山口地域社会学会・第 142 回日本社会分析学会例会 (山口大学). 2021 年 12 月.	

崎山比早子, 吉田由布子, <u>高橋征仁</u> . 福島県における甲状腺検査のメリットと甲状腺がん当事者の声. 第 64 回日本甲状腺学会学術集会. 2021 年 11 月.	
辻 智大	
納庄毅, <u>辻智大</u> . 山口県防府市剣川における過去 1000 年間の土石流発生履歴. 日本応用地質学会令和 3 年度研究発表会, 2021 年 10 月.	
一井瑛介, <u>辻智大</u> . 神鍋山の地形地質学的特徴および噴火史. 日本火山学会秋季大会, 2021 年 10 月.	
西川謙吾, <u>辻智大</u> . 高知県梶原地域の秩父帯における, 白亜系に貫入する蛇紋岩および蛇紋岩の不整合露頭. 日本地質学会第 128 年学術大会, 2021 年 9 月.	
中正 和久	
重中晟吾, <u>中正和久</u> , 和崎克己. Mizar 数学ライブラリの依存関係を可視化するアプリケーションの開発. 第 23 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム. 2021 年 11 月.	
樋口 隆哉	
樋口隆哉, 橘峰生. 養豚場における悪臭物質濃度および臭気指数の測定に基づく悪臭発生源の影響評価. 第 62 回大気環境学会年会. 2021 年 9 月.	
樋口隆哉, 今井剛, 関根雅彦. 主要な悪臭発生源を対象とした臭気強度評価に用いる基準臭濃度段階の設定. 第 34 回におい・かおり環境学会. 2021 年 8 月 31 日.	
村上 祐里香	
村上祐里香, 牛尾裕子, 磯村聡子, 斎藤美矢子. 健康危機発生後の自治体保健師の経験に関する文献検討. 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2022 年 1 月 4 日.	有
斎藤美矢子, 牛尾裕子, 磯村聡子, <u>村上祐里香</u> . 地域の健康課題発見・事業化検討に向けた 1 歳 6 か月児健診後カンファレンス. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 2021 年 12 月.	有
榊原 弘之, 永瀬友典, 神谷大介, 赤松良久, 守田孝恵, 磯村聡子, 斎藤美也子, <u>村上祐里香</u> . 介護施設における水害時避難確保計画の実効性向上のための方策検討. 土木学会中国支部研究発表会, 2021 年 6 月 13 日.	
森 啓年	
森啓年. TC201 Failure Paths について－国際的な堤防の技術検討の枠組みの動向－. 第 9 回河川堤防技術シンポジウム・企画セッション. 2021 年 12 月.	
森下 徹	
森下徹. 家老支配と郡奉行支配. 御津研究会 (第 2 回). 2021 年 9 月.	
山本 浩一	
森岡知大, <u>山本浩一</u> , 神野有生, 関根雅彦, 上原正義: 低高度 UAV を用いた干潟上の表在底生生物の検出に関する研究, 第 24 回日本水環境学会シンポジウム講演集, pp.283-284, 2021 年 9 月.	
<u>山本浩一</u> , 小野文也, 水俣勝基, 植田敏史: 簡易型地下水流向流速計を用いた高層湿原表層の流向流速分布, 水文・水資源学会/日本水文学会 2021 年度研究発表会要旨集, OP-8-01, 2021 年 9 月.	

山本浩一, 香川拓輝, Sigit Sutikno, Noerdin Basir: 熱帯泥炭地の崩壊に伴う懸濁態有機炭素の流出負荷の経年変化の推定, 第 56 回日本水環境学会年会講演集, p.8, 2022 年 3 月.	
山本 晴彦	
辻本ひかり, 山本晴彦, 兼光直樹. 六角川水系牛津川における小城市池上地区の遊水地計画に関するアンケート調査. 日本農業気象学会九州支部 2021 年大会. 2021 年 12 月.	
山本晴彦, 辻本ひかり, 兼光直樹. 洪水災害を軽減するための遊水地の整備についてー2019 年の牛津川と 2020 年の球磨川の洪水災害を事例としてー. 2021 年度日本農業気象学会中国四国支部大会. 2021 年 12 月.	
山本晴彦. 2021 年 7 月の梅雨前線豪雨により静岡県熱海市で発生した土石流災害の概要. 第 40 回日本自然災害学会学術講演会. 2021 年 9 月.	
吉本 憲正	
吉本憲正. 平成 30 年 7 月豪雨により発生した災害廃棄物分別土砂のキャタクトリゼーションとその有効利用. 中国地方建設技術開発交流会 (山口県). 2021 年 10 月.	
吉本憲正. 平成 30 年 7 月豪雨災害における広島県内の分別土の地盤工学特性および有効利用. 第 46 回地盤工学セミナー報告会. 2021 年 6 月.	
吉本憲正, 中下明文. クリンカアッシュと自然土混合試料の圧密及びせん断特性. 第 46 回地盤工学セミナー報告会. 2021 年 6 月.	
渡邊 学歩	
今田吉貴, 渡邊学歩. 数値流体解析に基づく円柱周りの混相流および河川内橋脚に生じる流体作用力の評価に関する研究. 第 73 回土木学会中国支部大会. 2021 年 6 月.	
泉晴稀, 有井賢次, 渡邊学歩. 複合現実技術(MR)の橋梁点検への適応に向けた視認性の評価に関する検討. 第 73 回土木学会中国支部大会. 2021 年 6 月.	
西村勇輝, 渡邊学歩, 有井賢次. 橋梁の GNSS 変位観測に基づく状態空間モデルの適用に関する研究. 第 73 回土木学会中国支部大会. 2021 年 6 月.	

D. 学会運営等

D1. 学会委員会

鈴木素之	
2021 年 6 月 - 2023 年 5 月	公益社団法人砂防学会 中四国支部 運営委員
2020 年 10 月 - 2022 年 9 月	公益社団法人土木学会 調査研究部門地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会委員
2018 年 8 月 - 2022 年 6 月	公益社団法人地盤工学会 災害連絡会議 専門委員 (降雨時の斜面崩壊)
2020 年 4 月 - 2022 年 3 月	山口大学地域未来創成センター 山口大学地域未来創成センター主事
2020 年 8 月 - 2021 年 6 月	公益社団法人 地盤工学会 表彰委員会委員

2020 年 7 月 - 2021 年 6 月	公益社団法人 地盤工学会 理事 公益出版担当
2018 年 7 月 - 2021 年 6 月	公益社団法人 地盤工学会 Soils and Foundations 編集委員
2019 年 5 月 - 2021 年 4 月	公益社団法人 地盤工学会 中国支部 地盤と建設 編集委員会 委員長
牛尾 裕子	
2021 年 4 月-2024 年 3 月	千葉看護学会評議員
榊原 弘之	
2020 年 6 月 - 2021 年 6 月	土木学会 土木学会論文集編集委員会・D3 分冊編集小委員会幹 事長
2019 年 6 月 - 2021 年 6 月	土木学会 土木学会論文集編集委員会・D3 分冊編集小委員会委 員
赤松 良久	
2017 年－現在	土木学会 水工学委員会／水工学論文集編集小委員会 委員
2017 年 9 月－現在	応用生態工学会 理事
2016 年 6 月－現在	土木学会 水工学委員会／水害対策小委員会 幹事
2016 年 6 月 - 現在	水工学委員会 グローカル気候変動適応研究推進小委員会 幹 事
2015 年 9 月－現在	土木学会 調査研究部門／水工学委員会／環境水理部会 委員
2015 年 9 月－現在	土木学会 調査研究部門／水工学委員会 委員兼幹事
網木 政江	
2021 年 9 月 - 現在	日本災害看護学会 認証制度委員会 委員
鳩 心治	
2018 年 4 月 - 現在	日本建築学会特別研究委員会 委員
2003 年 4 月 - 現在	日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議運営委員会 委 員
磯村 聡子	
2018 年 9 月 - 2021 年 8 月	日本病院・地域精神医学会 評議員
太田 岳洋	
2021 年 - 現在	日本応用地質学会 応用地質教育普及委員会 委員
2020 年 - 現在	日本応用地質学会 将来構想特別委員会 委員
2020 年 - 現在	日本応用地質学会 教科書執筆特別委員会 委員長
2018 年 - 現在	日本応用地質学会中国四国支部 会計監事
2017 年 - 現在	土木学会岩盤力学改訂版編集小委員会 委員
2016 年 - 現在	日本応用地質学会 火山地域における応用地質学的諸問題に関 する研究小委員会 委員長
2014 年 - 現在	日本応用地質学会 理事
2012 年 - 現在	日本応用地質学会 環境地質部会 委員

楮原 京子	
2020 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 行事委員会 委員
2020 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 秋季学術大会実行委員会 委員
2016 年 6 月 - 現在	日本活断層学会 災害委員会 委員
2012 年 6 月 - 現在	山口地理学会 常任委員
坂口 敦	
2021 年 4 月 - 現在	農業農村工学会土壌物理部会 会計担当幹事
2021 年 4 月 - 現在	土壌物理学会 編集委員
鈴木 祐麻	
2020 年 6 月 - 現在	環境システム計測制御学会 編集委員
2019 年 7 月 - 現在	日本海水学会若手会 会長
2019 年 6 月 - 現在	環境システム計測制御学会 評議員
2019 年 6 月 - 現在	日本海水学会 編集委員
2019 年 6 月 - 現在	環境システム計測制御学会 事務局長
2015 年 4 月 - 現在	環境資源工学会 評議員
辻 智大	
2021 年 9 月 - 現在	日本地質学会西日本支部会 役員
2019 年 - 現在	JSEG 火山地域の応用地質学研究小委員会 委員
2021 年 8 月 - 現在	土木学会 調査研究部門 原子力土木委員会 断層活動性評価小委員会 委員
中正 和久	
2021 年 4 月 - 現在	情報処理学会 中国支部 運営委員
2018 年 4 月 - 現在	日本 Mizar 学会 Mechanized Mathematics and Its Applications, Works in Progress (MMA-WiP) 編集委員
森 啓年	
2019 年 4 月 - 現在	地盤工学会 地盤工学ジャーナル 編集委員
2018 年 4 月 - 現在	International Commission on Large Dams, Technical Committee LE: Levees, Member
2017 年 4 月 - 現在	地盤工学会国際部 部員
2017 年 4 月 - 現在	公益社団法人 地盤工学会 中国支部 地盤と建設 編集委員会 委員
2017 年 4 月 - 現在	International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering TC201: Geotechnical Aspects of Dykes and Levees and Shore Protection, Corresponding Member
2016 年 10 月 - 現在	土木学会地盤工学委員会堤防研究小委員会 委員
2016 年 10 月 - 現在	土木学会水工学委員会グローバル気候変動適応研究推進小委員会 委員

山本 浩一	
2019 年 4 月 - 現在	日本水環境学会 湿地・沿岸域研究委員会 幹事長
2019 年 4 月 - 現在	土木学会 中国支部幹事
山本 晴彦	
2021 年 4 月 - 2022 年 3 月	日本自然災害学会 評議員
吉本 憲正	
2021 年 12 月 - 現在	CREST 2023 若手育成委員会 副委員長
2021 年 6 月 - 現在	地盤工学会 地盤工学会誌編集委員会
2021 年 2 月 - 現在	日本技術者教育認定機構 日本技術者教育認定機構の認定審査にかかわる副審査員
2020 年 6 月 - 現在	日本材料学会 中国支部 学会賞選考委員会 委員
2020 年 6 月 - 現在	日本材料学会 第 69 期編集委員会 査読委員
2015 年 5 月 - 現在	地盤工学会 中国支部 幹事
2014 年 8 月 - 現在	日本材料学会 地盤改良委員会 委員

D2. 外部委員会等

鈴木 素之	
2020 年 4 月 - 現在	NPO 法人応用斜面工学研究会 理事長
牛尾 裕子	
2021 年 4 月-2023 年 3 月	山口県国民健康保険運営協議会 委員
2021 年 4 月-2023 年 3 月	宇部市建築審査会 委員
2022 年 3 月-現在	山口県地域保健関係職員現任教育検討会議 委員
赤松 良久	
2018 年 10 月 - 現在	億首川マングローブ保全・活用推進協議会 委員
2015 年 6 月 - 現在	天然アユがのぼる江の川づくり検討会環境部会
2015 年 2 月 - 現在	中国地方整備局浜田河川国道事務所高津川河床掘削懇談会 委員
朝位 孝二	
2021 年 11 月 - 現在	山口県河川委員会 委員
2021 年 7 月 - 11 月	柳井市下水道事業検討委員会 委員長
2021 年 4 月 - 2023 年 3 月	山口県防災会議 専門委員
2021 年 4 月 - 2022 年 3 月	木屋川ダム再開発事業環境影響評価技術検討委員会 委員長
2018 年 4 月 - 2022 年 3 月	自然災害研究協議会 委員（同中国部会部会長）
網木 政江	
2021 年 7 月 - 現在	公益社団法人 山口県看護協会 教育委員会委員
2021 年 4 月 - 現在	一般社団法人 日本看護系大学協議会 災害連携教員
2020 年 7 月 - 現在	山口県災害看護研究会 副会長

2018年5月 - 現在	日本防災士会山口県支部 役員
鵜 心治	
2021年4月 - 現在	山口市多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議 会長
2019年4月 - 現在	日本学術振興会 学術システム研究センター 専門研究員
2018年4月 - 現在	山口市新本庁舎整備専門会議 会長
2017年4月 - 現在	光市都市再生推進協議会 会長
2016年4月 - 現在	岡山県高梁市立地適正化計画策定協議会 会長
2015年4月 - 現在	周南市都市再生推進協議会 会長
2015年4月 - 現在	山口市都市計画審議会 会長
2014年4月 - 現在	山口県建築審査会 会長
2014年4月 - 現在	山口県都市計画審議会 会長
2013年4月 - 現在	山口市景観審議会 会長
2012年4月 - 現在	山口県国土利用計画審議会 会長
2009年4月 - 現在	国土交通省中国地方整備局 景観施策アドバイザー
2005年4月 - 現在	山口県 景観アドバイザー
太田 岳洋	
2019年 - 現在	国土交通省 建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル改訂委員会 委員
2018年 - 現在	下関市 下関市産業廃棄物処理施設設置計画専門委員会 指定委員
2018年 - 現在	下関市 下関市廃棄物処理施設環境評価専門委員会 委員
2017年 - 現在	山口県 山口県廃棄物処理施設環境評価専門委員会及び山口県産業廃棄物処理施設設置計画専門審査会
楳原 京子	
2019年9月 - 現在	山口県希少野生動植物保護対策委員会 委員
2019年9月 - 現在	山口県自然環境保全審議会 委員
2019年4月 - 現在	山口県防災会議 専門委員
2016年11月 - 現在	山口県秋吉台学術専門家委員会 委員
2015年10月 - 現在	公益財団法人地震予知総合研究振興会 海域活断層モデル検討委員会 委員
2012年7月 - 現在	国土地理院 全国活断層帯情報整備検討委員会 委員
斎藤 美矢子	
2021年6月 - 現在	宇部市社会福祉協議会 評議員
2020年11月 - 現在	宇部市地域福祉計画等策定懇話会 委員
2020年4月 - 現在	宇部市市営住宅審議会 委員
坂口 敦	
2021年4月 - 現在	山口県庁 公共事業評価委員会

森 啓年	
2021 年 3 月 - 現在	土木研究センター 盛土強化工法研究会 技術委員長
2019 年 4 月 - 現在	中国電力 水力設備安全性評価委員会 委員
2017 年 4 月 - 現在	山口県土木建築部 技術アドバイザー
2017 年 4 月 - 現在	山口県教育委員会 防災出前授業 講師
2016 年 10 月 - 現在	国土交通省中国地方整備局 河川部 堤防技術研究会 有識者委員
山本 浩一	
2020 年 11 月 - 現在	宇部市環境審議会 委員
2016 年 11 月 - 現在	山口県土地利用審査会 委員
2010 年 4 月 - 現在	榎野川河口域自然再生協議会 委員
吉本 憲正	
2018 年 4 月 - 現在	山口県土木建築部 技術アドバイザー

D3. 講演

森 啓年

基調講演「河川堤防の被災を防ぐ研究の最前線」／令和 3 年度中国地方建設技術開発交流会（岡山会場）／2021 年 11 月 5 日

山本 晴彦

特別講演「農業気象災害の特徴と水害軽減のための農地の遊水地化ー2019 年の台風 15 号・19 号および秋雨前線を事例としてー」／第 79 回日本農業教育学会大会／2021 年 9 月 18 日

E. 報道関係

E1. TV 放送

放送日	放送局	番組名	出演者
2022 年 3 月 16 日	山口放送	【山口】阿蘇山大噴火の火砕流が山口市徳地まで到達していた（テレビ 3/16 19:34 配信）	辻 智大
2022 年 3 月 16 日	山口朝日放送	徳地で火砕流堆積物を発見 阿蘇火山 9 万年前の大噴火（夕方のニュース）	辻 智大
2022 年 3 月 16、17 日	NHK	阿蘇山火砕流の痕跡 山口市徳地の工事現場で見つかる（16 日昼、17 日朝のニュース）	辻 智大

E2. ラジオ放送

放送日	放送局	番組名	出演者
2022 年 1 月 8 日	FM きらら	ようこそ BOUSAI カフェ	網木政江、牛尾裕子

E3. 新聞

掲載日	新聞名	タイトル	該当者
2022 年 3 月 25 日	中国新聞	阿蘇山の火砕流、山口市徳地まで 9 万年前の噴火、山口大が痕跡発見 https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/148588 (3 月 26 日朝刊)	辻 智大
2022 年 3 月 17 日	宇部日報	火砕流の国内最長到達地 徳地柚木 阿蘇山から 170 キロ https://ubenippo.co.jp/2022/03/17/490859/ (朝刊)	辻 智大
2022 年 3 月 17 日	読売新聞	阿蘇火砕流山口市に到達 9 万年前の大噴火移動 170 キロ、最長 https://www.yomiuri.co.jp/local/yamaguchi/news/20220316-OYTNT50180/ (朝刊)	辻 智大
2022 年 3 月 16 日	朝日新聞デジタル	巨大噴火の痕跡国内最長 170 キロ地点に 300 度超えた火砕流 https://www.asahi.com/articles/ASQ3J6S3GQ3JTZNB00X.html	辻 智大
2022 年 3 月 16 日	毎日新聞	9 万年前の阿蘇山大噴火 170km 先に火砕流跡最長到達地点に https://mainichi.jp/articles/20220316/k00/00m/040/275000c (3 月 17 日朝刊)	辻 智大
2022 年 1 月 8 日	宇部日報	初の「減災ナース」育成へ 3 地区をモデルに研修会 https://ubenippo.co.jp/2022/01/08/312201/	保健衛生部門
2021 年 12 月 23 日	山口新聞	建設業の MR 技術体験 佐波川堤防工事 高校生と大学生 https://yama.minato-yamaguchi.co.jp/e-yama/articles/36688	森 啓年
2021 年 12 月 23 日	ほうふ日報	高大生が複合現実 (MR) 体験 佐波川堤防工事現場で国交省	森 啓年
2021 年 11 月 22 日	山口新聞	まちの減災ナース育成 下関・長府をモデル地区に研修 https://yama.minato-yamaguchi.co.jp/e-yama/articles/35254	保健衛生部門
2021 年 10 月 8 日	ほうふ日報	華浦小で防災の出前授業 6 年が命守る大切さ学ぶ	森 啓年

2021 年 9 月 29 日	FNN プライムオンライン	危険なのに、なぜ台風のとときに“川の様子”を見に行ってしまう？ 心理と対処法を専門家に聞いた https://www.fnn.jp/articles/-/244597	高橋 征仁
2021 年 7 月 28 日	建設通信新聞	地盤特集 2021 東日本大震災から 10 年 大雨・地震に備える「土石流は同じ場所で繰り返す」 https://www.kensetsunews.com/PB5001H/wp-content/uploads/2021/07/OK0000021072801301.pdf	鈴木 素之

F. 表彰・評価関係

足立 亮介

第 64 回自動制御連合講演会優秀発表賞／総量制約を有する最適化問題の木構造グラフ上での分散解法／2021 年 11 月／<http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/topic/2021/t202202093.html>

森 啓年

令和 2 年度事業企画賞／「河川堤防の調査・検討から維持管理まで」、地盤工学会、地盤工学会河川堤防の調査検討から維持管理まで編集委員会／2021 年 6 月

G. 獲得研究費

【科研費】

鈴木 素之

科研費・基盤研究 (A), 代表者, 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 田口 岳志), 堤体盛土を対象とした原位置簡易型ベンダーエレメント法の適用性検証に関する研究, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 二瓶 泰雄), 令和元年台風 19 号及び台風 21 号による広域災害に関する総合研究, 2019-12-04 – 2022-03-31

牛尾 裕子

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 石丸 美奈), 認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証, 2021-04-01 – 2025-03-31

厚生労働科研費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業), 分担者, 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証, 2020-04-01 – 2022-03-31

榎原 弘之

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 福山 敬), 立地とアクセシビリティの評価による地方中小都市のコンパクト化の進捗の分析, 2021-04-01 – 2024-03-31

赤松 良久

科研費・基盤研究 (A), 代表者, 流域におけるノロウイルスの動態把握と流行予測, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 新谷 哲也), UAV による湖沼・貯水池 3 次元水温モニ

タリングと水温予測システムの構築, 2020-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 乾 隆帝), 気候変動に伴う河川魚類の分布・生物量変動予測, 2019-04-01 – 2022-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 二瓶 泰雄), 令和元年台風 19 号及び台風 21 号による広域災害に関する総合研究, 2019-12-04 – 2022-03-31

朝位 孝二

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類と防災情報提供への応用, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 佐竹 健治), トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査, 2022-02-15 – 2023-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 二瓶 泰雄), 令和元年台風 19 号及び台風 21 号による広域災害に関する総合研究, 2019-12-04 – 2022-03-31

足立 亮介

科研費・若手研究, 代表者, スケーラブルな通信に基づくセンサネットワーク上の高精度状態推定, 2020-04-01 – 2024-03-31

鷗 心治

科研費・基盤研究 (B), 代表者, コンパクトシティ計画の国際比較からみた地方都市のまちづくりデザイン手法の提案, 2021-04-01 – 2024-03-31

磯村 聡子

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 斎藤 美矢子), 1 歳 6 か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発, 2020-04-01 – 2024-03-31

楮原 京子

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 荒木 一視), 南海トラフ地震発生時における効果的な救援物資輸送実現のための地理学的研究, 2018-04-01 – 2022-03-31

斎藤 美矢子

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 1 歳 6 か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発, 2020-04-01 – 2024-03-31

坂口 敦

科研費・若手研究, 代表者, 土壌水分と作物の水ストレスの関係の定式化と予測値の圃場整備における活用, 2021-04-01 – 2026-03-31

白水 元

科研費・若手研究, 代表者, 干出時の地下水位変動による底質性状変化が干潟の地形変化に与える影響の解明, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 朝位 孝二), 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類と防災情報提供への応用, 2021-04-01 – 2024-03-31

鈴木 祐麻

科研費・挑戦的研究(萌芽), 代表者, 土壌環境において重金属がアナターゼの表面に濃縮する要因の実験および理論計算的解明, 2020-07-30 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 比嘉 充), 塩分濃度差発電用新規高効率・高安定性エネルギー変換システムの開発, 2021-04-05 – 2024-03-31

高橋 征仁

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 庇護主義を超えてーポストコロナ時代のリスク意識に関する国際比較研究, 2021-04-01 – 2025-03-31

中正 和久

科研費・若手研究, 代表者, 定理間の論理的な類似度に関する研究, 2020-04-01 – 2023-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 下井 信浩), ピエゾ極限センサを用いたインフラ構造物の簡易自律型健全性モニタリングシステム, 2020-04-01 – 2024-03-31

森下 徹

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 西国の城下町域における労働社会の研究, 2018-04-01 – 2022-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 三田 智子), 岡山藩領における村落構造と<地帯構造>についての基礎的研究, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 町田 哲), 近世山里の生業・流通・支配に関する構造的論研究ー列島4地域の比較類型からー, 2020-04-01 – 2024-03-31

吉本 憲正

科研費・基盤研究 (C), 代表者, メタンハイドレート生産に加熱法は適さないのか?ー熱・流体移動特性の解明と評価ー, 2020-04-01 – 2024-03-31

【JST 研究成果最適展開支援プログラム A-STEP】

赤松 良久

生物濃縮を活用した下水中のウイルスモニタリング手法の開発, 国立研究開発法人科学技術振興機構, 2021/5/1~2022/3/31

【共同研究】

鈴木 素之

補強土構造物の定量的安定性評価手法の確立に関する研究, 一般社団法人日本テールアルメ協会, 2019/4/1~2022/3/31

新盛土構造 (パイルスラブ式盛土) の力学的挙動の解明に関する研究, ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社, 2020/12/1~2022/3/31

クリンカアッシュのジオグリッド補強土材としての性能評価に関する研究, 中国高圧コンクリート工業株式会社, 2021/7/9~2022/3/31

赤松 良久

【流域環境学講座 (日本工営共同研究講座)】 流域環境評価ツールとその活用手法の開発, 日本工営株式会社, 2019/8/1~2023/3/31

大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究，国立
大学法人九州大学，2021/6/9～2022/3/15

衛星画像による河道形状および河川植生繁茂の時空間変化の把握，一般財団法人山口県建設技術
センター，2021/5/10～2022/3/23

朝位 孝二

山口県の流域治水の在り方に関する基礎的研究，一般財団法人山口県建設技術センター，2021/5/10
～2022/3/23

辻 智大

山口県に到達した阿蘇火砕流堆積物に関する研究，株式会社四国総合研究所，2021年8月～2022
年3月

山本 浩一

泥炭堆積物の輸送力学の確立，JSPS 二国間交流事業 インドネシア（DG-RSTHE）との共同研究，
代表者，2020/4/1～2023/3/31

吉本 憲正

クリンカアッシュと自然砂の混合材料特性に関する研究，中国高压コンクリート工業株式会
社，2021/7/9～2022/3/31

鈴木 素之・太田岳洋・赤松良久・楮原京子

土砂洪水氾濫リスクと土砂供給ポテンシャルの把握に関する研究，一般財団法人山口県建設技術
センター，2021/5/10～2022/3/23

【受託研究】

鈴木 素之

関門層群安山岩質凝灰岩の道路法面等の安定に関する研究，国土交通省中国地方整備局山陰西部
国道事務所，2021/4/1～2022/3/31

物理・化学的視点からの分析によるダム浸透水に含まれる濁り成分発生源の追跡－分類チャート
の試作と浸透水の濁り成分発生源の追跡手法についての検討－，独立行政法人水資源機構，
2021/11/1～2022/3/18

赤松 良久

環境 DNA によるダム湖陸封化アユに関する研究，独立行政法人水資源機構，2021/4/14～2022/3/31
オオカナダモ分布拡大の抑制に関する研究に係る研究委託，国土交通省中国地方整備局三次河川
国道事務所，2021/4/1～2022/3/31

佐波川における河道変化の効率的なモニタリング手法と河道管理に関する研究，国土交通省中国
地方整備局山口河川国道事務所，2021/4/1～2022/3/31

江の川における置き土が環境に与える影響についての研究，国土交通省中国地方整備局浜田河川
国道事務所，2021/4/1～2022/3/31

環境 DNA によるダム周辺の魚類相調査に関する研究，独立行政法人水資源機構，2021/6/23～
2022/3/22

朝位 孝二

自己組織化マップ（SOM）を活用した佐波川における切迫感のある防災ツールに関する研究，国

土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所，2021/4/1～2022/3/31

【その他の研究助成】

鈴木 素之

鹿島学術振興財団研究助成，貯水位変動を受けた溜池堤体からの細粒土粒子の漏出進行メカニズムの解明，2020 - 2021 年度

大成学術財団研究助成，ため池堤体における土質境界部の内部侵食の進展メカニズムの解明，2021-2022 年度

辻 智大

山口県に到達した阿蘇火砕流堆積物に関する研究，株式会社四国総合研究所 2021 年 8 月 - 2022 年 3 月

石灰石鉱業協会令和 3 年度石灰石鉱業協会研究奨励金，秋吉石灰岩およびその周辺に発達する亀裂・断層系の形成史的分類，2021 年度

山本 晴彦

日本国土開発未来研究財団研究助成，平成・令和期に発生した大規模水害における浸水想定区域の土地利用変遷と水害リスクの評価に関する研究，2021 年 10 月 - 2023 年 9 月

大林財団研究助成，地理空間情報と雨量データベースによる郊外型大型商業施設等の洪水リスク評価，2021 年 4 月 - 2022 年 3 月

鹿島学術振興財団研究助成，令和期に洪水災害に見舞われた牛津川・球磨川における水害リスク評価と遊水地導入に関する住民意識調査，2021 年 4 月 - 2023 年 3 月

太田 岳洋・辻 智大

日本国土開発未来研究財団学術研究助成，定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法の開発，2021 年 10 月 - 2024 年 9 月

あとがき

山口大学地域防災・減災センター2年目となる2021年度は、最新の防災・減災の知識を広く一般に提供することを目的に、新たに「防災・減災講演会」シリーズを、コロナ禍によりWeb開催でスタートしました。気候変動、自然災害による被害の予測、避難の心理など、各分野の専門家から最新の知見が紹介され、毎回多くのご参加がありました。さらに、2021年4月に発生した東ティモールでの洪水被害について、イリディオ・シメネス・ダ・コスタ駐日東ティモール民主共和国大使ご臨席のもと、東ティモール国立大学と共催で緊急報告会（Web会議）を開催するということもありました。一方で県内自治体からの要請へ、複数部局メンバーがチームで対応する、センターの強みを活かした地域・社会貢献活動も行っています。

本センターの特色である、複数の部局参加による分野横断・学際的プロジェクトチームにより、センターが目指す、災害に強く持続可能な都市社会モデル構築への力強い一歩を踏み出す一年となりました。私事ですが、2021年度から本学に着任し、このようなプロジェクトに参加できたことを大変光栄に存じます。今後とも皆様のご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

副センター長（山口大学大学院医学系研究科地域・公衆衛生看護学分野教授）牛尾裕子